

# ZERO Malaria 2030 Campaign Quarterly Report Vol.6

[www.zero2030.org](http://www.zero2030.org)



ZEROマラリア2030キャンペーンの  
ロゴのバナーとピンバッジはJOCV(青年海外協力隊)  
からのリクエストに応じて提供している

## JOCV(青年海外協力隊)のみなさんとZEROマラリア2030キャンペーンが進展

株式会社電通様の協力を得て制作されたキャンペーンロゴをあしらったバナーとピンバッジ。独立行政法人国際協力機構(JICA)様のご協力を得て、世界各地で活躍されるJOCVの方に呼び掛け、希望する方へ提供させていただく試みは、現在3か国に広がりました。

マラリアが深刻なサブサハラアフリカのガーナとマラウイ、そして今年に入り再び流行の可能性が指摘された太平洋地域のパプアニューギニアです。みなさんからは学校での講習などでマラリアを紹介する際に使用したと嬉しい報告をいただきました！簡易レポートはZEROマラリア2030キャンペーンサイトに随時掲載していますので、チェックしてください！



### 飢餓をZEROに一

### ZERO Hunger!にむけた日本からのチャレンジ

10人に1人が飢えに苦しむこの世界。

ZERO2030サイトでは、国連WFP協会が行うゼロハンガーキャンペーンサイトへのリンクを開始しました。

Photo: WFP/Adel Sarkozi

URL: <http://ja1.wfp.org/zero-hunger>



### 今号のハイライト

- キャンペーンバナーとピンバッジが世界へ広がり始めました！
- マラリアクイズ映像完成！
- ZEROマラリアキャンペーンをサポートいただいている桂歌助さんの活動がTV番組で紹介されました！

ZEROマラリア2030  
キャンペーン最新情報は  
[www.zero2030.org](http://www.zero2030.org)  
でチェック



## 最新マラリア関連情報

8月20日、ロナルド・ロスがかがマラリア原虫を運ぶことを発見したことから、「世界蚊の日(World Mosquito Day)」とされたこの日に、Yahoo!の特集記事で、日本からのゼロマラリアに向けた取り組みが紹介、日系企業の取り組みや、ZEROマラリア2030キャンペーン事務局を務めるMalaria No More Japanの活動などが紹介されました。

日本における最新ゼロマラリア動向をわかりやすくまとめているのでぜひ一読ください。

「[今も年間40万人以上が死亡——マラリア撲滅に立ち向かう世界と日本企業](#)」



発見！マラリアの真実

## マラリア紹介映像公開！

ZEROマラリア2030キャンペーンにご協力いただいている株式会社電通様のご支援で、「発見！マラリアの真実」の映像を制作しました。

約8分間の番組は、Malaria No More Japanの理事でもある、国立国際医療研究センター研究所熱帯医学・マラリア研究部長の狩野繁之氏の講演会資料を元に作成。

マラリアを知らない人にもクイズ形式で、マラリアとは何か、日本でのマラリアの意外な歴史やつながりや、

世界のMalaria No Moreスタッフメッセージが紹介されています。ぜひご覧ください！

制作協力：株式会社電通

YouTube: <https://youtu.be/7X2hQQ059Op0>



ゼロマラリア賞受賞者  
落語家・桂歌助さんの「蚊相撲」が  
テレビで紹介

ZEROマラリア2030キャンペーンに賛同、これまでイベントに登壇いただいている落語家・桂歌助さんの創作落語「蚊相撲」がフジテレビ『フューチャーランナーズ〜17の未来〜』（2018年7月～9月毎日曜 17:25～17:30放送）で9月2日放送されました。

マラリアのことや2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けたメッセージも入っているので、ぜひチェックしてください。

映像は過去の動画一覧で視聴可能です。

HP: <https://www.fujitv.co.jp/futurerunners/archive.html>

## 2030年のゼロマラリア達成を目指して、キャンペーンはスタートしました。

### 日本から世界へ、「マラリアのない世界」を目指す

「人類は感染症を克服する偉大な瞬間を目にしようとしている」と述べたのは、ビル・ゲイツですが、近年マラリアをはじめとする蚊が運ぶ病気による死者数が劇的に減少しています。2000年から2010年までの10年間で死者数は60%減少し、Malaria No More Japanが設立された2012年には「1分一人、マラリアが原因で子どもが死亡していた」のが、2017年現在「2分に一人の子ども」にまで減少しました。

しかしそれでもなお、世界人口の約半分、32億人がマラリアの脅威に曝されています。

グローバルヘルスの分野で大きな貢献をしてきた日本にとって、明確で具体的な目標を持ち、この数値達成への取り組みを具体化することは大きな意味を持ちます。また世界は、日本の試験・研究機関や企業に対しさらなる研究開発投資を促し、日本政府に対し国際機関への継続的な拠出を通じたグローバルヘルス分野への一層の貢献を強く期待しています。

さらに、近年加速化するグローバル化と気候変動が、病原菌の移動と蚊の生育域を増大させた結果、日本国内も「蚊が運ぶ病気」の脅威にさらされている現実についてより深く認知し、「蚊が運ぶ病気によって命を落とす人をゼロにする」ことの重要性への認識が浸透することが必要です。

こうした思いから、2017年4月25日の世界マラリアデーに「2030年までにマラリアによる死者数ゼロを達成する」国際社会の決意を応援するキャンペーンを開始することを発表、これまでに企業や国際機関、研究者、政府、著名人、メディア、市民組織、協力団体など幅広い分野の方々と連携し、蚊が運ぶ病気とは何かをわかりやすく伝えてきました。今後はさらに具体的なアクションや支援プログラムなどを展開する予定です。

### ZEROマラリア2030キャンペーン実行委員会(10月2日現在)

- ◆ 神余 隆博(認定NPO法人Malaria No More Japan理事長、運営委員長)
- ◆ 赤名 正臣(イーザイ株式会社執行役)
- ◆ 鶴尾 雅隆(認定NPO法人日本ファンドレイジング協会代表理事)
- ◆ 大河原 昭夫(公益財団法人 日本国際交流センター理事長/グローバルファンド日本委員会ディレクター)
- ◆ 尾身 茂(独立行政法人地域医療機能推進機構理事長)
- ◆ 北 潔(長崎大学大学院熱帯医学・グローバルヘルス研究科長)
- ◆ 木村 泰政(UNICEF 東京事務所 代表)
- ◆ 近藤 哲生(国連開発計画(UNDP)駐日代表)
- ◆ スリングスピー BT(公益社団法人グローバルヘルス技術振興基金 CEO兼専務理事)
- ◆ 武見 敬三(参議院議員)
- ◆ 一般社団法人SDGs市民社会ネットワーク

### ZEROマラリア2030キャンペーンオブザーバー

- ◆ 長谷川 学(内閣官房国際感染症対策調整室新型インフルエンザ等対策室 企画官)

### ZEROマラリア2030キャンペーンサポート企業

- ◆ 株式会社電通
- ◆ シスメックス株式会社(\*2017年10月イベント単独ご支援)



ZEROマラリア2030キャンペーン

〒102-0083

東京都千代田区麹町3-7-4 8階

認定NPO法人Malaria No More Japan内

TEL: 03-3230-2553

Email: [zero2030@malariaenomore.jp](mailto:zero2030@malariaenomore.jp)